

令和6年度 大田区立洗足池学校 自己評価 報告書

令和7年3月7日

○自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
生予個 き測別 る因目 力をな 育未成 來し社 ま会すを 創造的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 4 3	3学期の「学習に関する児童アンケート」 「授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか(1～5年)」「授業で学んだことを、次の学習や実生活と結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか(6年)」 の「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」との回答の合計	4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	①校内研究で、教科等横断的な学びを中心としたカリキュラムマネジメントの推進について研究してきた。各教科(特に国語科)で身に付いた資質・能力を、総合的な学習の時間に発揮させることができた。 ①「科学」分野の力をもっと身に付ける力がある。 【改善】近隣の理科教育推進拠点校(清水窪小)に教員が向き、先進的な教育技術を学び、本校に広めていく。 ②ゲストティーチャーによる授業、校外学習等を積極的に実施してきたことにより、多くの体験活動を行うことができた。たてわり班活動や全校遠足等は高学年児童にリーダーシップをとらせることで、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力を育成することができた。 【改善】ゲストティーチャーとの継続的な関係構築、外部人材の新規開拓を目的とし、新たに「地域人材ヘルプデスク」を設置する。 ③総合的な学習の時間の発表では、全員がタブレットでスライドを作成して発表に活用した。日々のドリル学習でも活用している。また、教員はICT支援員が実施する研修を受講し、自身の情報活用能力をアップデートするよう励んでいる。	A B C D	4 2 0 1	【A評価の方から】 ・わくわくスクール等での地域の方々や、東京科学大学の留学生といった様々な方々とのかかわりが児童の考え方や他者と協働していく力を養っていると思われる。 ・学習して得た知識や学校行事や課外活動で体験したことを生かすことの大切さ、情報技術の活用など、時代に添った能力を身に付け、安心して社会に出ていくための学びを大事にしていると感じた。 ・低学年からタブレットを常用している上、授業中に困ることがあればすぐに先生や友達に聞ける良い雰囲気がある。 ・高学年のためには10社ほどの多業種の会社と連携し、出前授業をして生きる力を身に付けるようにしている。 ・音楽の授業では各自がPCカメラで自分を映し歌声を録音してチェックするなど、STEAM教育(芸術と技術)を融合させる取り組みをしている。 ・授業では問題の回答を単に教えるのではなく、こどもたちの様々な考えを皆で共有できるようにしており、他者と協働して自分の創造力をさらに高められることができるような授業風景であった。 【B評価の方から】 ・学校公演日の発表を見たりして、内容に関しては議題選び、疑問点、自分なりに感じことなど、よまとめたもののが多かった。 ・東京科学大学の留学生との交流は、異文化を学ぶきっかけづくりともなるため、引き続き、進めていただきたい。 ・学校見学の際、楽しそうに英語の授業をどこもちは受けていた。児童参加型で主体的な児童育成になると感じた。しかし、まとめ方が上手な子が多いのは日頃の先生方の指導のおかげだと思った。
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが人 材国 際育都 成市 します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国语教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 4 3	12月の学校評価保護者アンケート 「(学校は)ALTを活用した授業や、東京科学大学留学生との交流会などを通して、英語での実践的なコミュニケーション能力の育成を図っている。」 の肯定的回答の割合	4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	①外国语教育指導員とともに「英語カフェ」(異学年間の英語を通じた交流会)や、東京科学大学留学生との交流会などが、英語を実践的に使う機会としてとても役立っている。 ②「人権教育」では、年3回道徳の授業で「いじめ防止」をテーマとすることを通じ、互いに尊重し合う心の育成を図ってきた。また、児童が主体となり、人権に関する標語を作り(洗小ニコニコ平和宣言「笑顔で挨拶をし、よりよい学校生活を送ろう」)校内に広めた。 ③総合的な学習の時間では、5年生が環境、6年生が国際理解、をテーマに学習を進めてきた。地球規模の課題については、実際にそのような活動に参加している方の生の声など聞けるとより歩み込んだ考えに到達したように思う。 ・外国语教育については、早くから熱心に取り組まれ、特に東京科学大学の留学生との交流は言葉や文化を学ぶ良い機会や経験であるとともに、英語でのコミュニケーションをとることで、こどもたちの自信につながると思った。 ・ALT教諭の授業は大変盛り上がりており最新の話題(大谷選手など)興味をひく内容で英語学習をしている。 ・東京科学大学の留学生との交流や、校内に英語表記を充実させるなど、生きた英語や実用的で役に立つ単語習得をしている。 ・大田区では多摩川台公園の自然を活用した教育をはじめ、区の連合音楽祭に参加している。高学年になると浅草や横浜にも出かけて、わが国を俯瞰的に見られるよう段階を踏んでいる。 ・異国のことを中心に意識させるような校舎(階段の外国语表示)や東京科学大学の留学生との交流も行われており、将来国際人としても活躍できるような学習環境を提供している。	A B C D	7 0 0 0	【A評価の方から】 ・かつて英語の研究をされていたと記憶しているが、それ以降、英語教育にはしっかりと力を注いでいる姿を見て取ることができと思う。 ・東京科学大学の留学生との交流は、異文化を学ぶきっかけづくりともなるため、引き続き、進めていただきたい。 ・学校見学の際、楽しそうに英語の授業をどこもちは受けていた。児童参加型で主体的な児童育成になると感じた。教員の評価が高いことが理解できる。 ・外国语教育指導員の活用によって、英語に慣れることができていると感じる。様々な国から留学してきている東京科学大学の留学生との交流によって、世界にはいろいろな文化背景をもつ人がたくさんいることにも触れることがでていると思う。4年生の伝統文化の授業など、日本人として日本はどういう国なのかを考える機会も得られていた印象である。地球規模の課題については、実際にそのような活動に参加している方の生の声など聞けるとより歩み込んだ考えに到達したように思う。 ・外国语教育については、早くから熱心に取り組まれ、特に東京科学大学の留学生との交流は言葉や文化を学ぶ良い機会や経験であるとともに、英語でのコミュニケーションをとることで、こどもたちの自信につながると思った。 ・ALT教諭の授業は大変盛り上がりており最新の話題(大谷選手など)興味をひく内容で英語学習をしている。 ・東京科学大学の留学生との交流や、校内に英語表記を充実させるなど、生きた英語や実用的で役に立つ単語習得をしている。 ・大田区では多摩川台公園の自然を活用した教育をはじめ、区の連合音楽祭に参加している。高学年になると浅草や横浜にも出かけて、わが国を俯瞰的に見られるよう段階を踏んでいる。 ・異国のことを中心に意識させるような校舎(階段の外国语表示)や東京科学大学の留学生との交流も行われており、将来国際人としても活躍できるような学習環境を提供している。
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 とが な個 性力と を能 育力成 をし發 ます する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 4 3 4	12月の学校評価保護者アンケート 「算数少人数指導や読書活動の充実、区漢字検定の実施等を通して、基礎学力の向上を図っている。」 の肯定的回答の割合	4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	①道徳の授業では、年間を通して児童が変容していくことを目標とし、指導にあたってきた。道徳科の授業が日々の生活で生かされるよう、学校生活のあらゆる場面で継続的に指導を行ってきた。 ②全学年で算数習熟度別指導を行ったり、必要に応じて算数補習(夏休み中の算数キャンプ)を行ったりして、確かな学力の育成を図ってきた。 ③体力テストの結果から、本校児童の課題を見出し、その改善のための運動を推進してきた。今年度は基礎体力向上を目指し、「なわとびタイム」を設定し、定期的になわとびに励んだ。また、体育朝会では、握力、ボール投げ、バランス向上などに役立つ運動を児童に紹介した。 ④食育の推進が不十分である。 【改善】栄養士が児童に向けて食育に関する講話をを行う。 ④保幼小連携事業や小中一貫教育の日(会)を通して、教育方針や具体的な教育内容、また児童生徒の情報を共有し、それらを日々の教育に活かすことができた。	A B C D	7 0 0 0	【A評価の方から】 ・少人数指導、読書活動とともに成果を感じることができている。 ・学習習熟度に合わせた指導など、個に応じた学習支援を行うことによって、誰一人取り残すことなく、学ぶ意欲の向上、確かな学力の定着に努めていると感じる。 ・地域との交流を積極的に実行している。保育園としてはとても良い経験となっている。 ・道徳の視点では、問題が起これば先生たちが見過ごさずにこどもたちと問題点について話し合う体制がでていた。学習習慣に応じてクラス分けするなど、とりこぼさないようする先生の意識の高さを感じている。保健体育なども少し踏み込んで教えていて、自分たちの時代との違いを感じた。乳幼児から中学校までの連携に関しては、色々な保育園・幼稚園から集まる中で、おおむねできているという保護者の感想は素晴らしいと思う。ただ、中学校に関しては私立中への進学が増える中で一貫した教育には限界があるのではどういう気もしている。 ・こどもの個性に寄り添い、必要に応じた支援など、きめ細かい対応がうかがえる。また、体育や道徳などの授業を通して基本的な生活習慣や、心も体も健康に過ごす大切さを学んでいる感じた。 ・6年家庭科ミシンの授業では、分からずからといってすぐに先生に質問するのではなく、まず自分や隣の席の友人と熟考しているため上達が早いと感じた。 ・算数は3レベルの習熟度別学習であるが、単元ごとにきめ細やかにメンバーを入れ替えているのが慣習化されておらず素晴らしいと感じた。 ・学芸会は全員に「見せ台」があり、また他の学年の演目も集中して鑑賞していた。主役などセリフや動きの多い役は数人で分担して全員にスポットが当たっているのがよしと思った。 ・習熟度に応じた教育を行っており、個々のこどものもつ力を發揮できるような学習環境である。

学個 校別 力目 ・標 教4 師 力を 向 上 さ せ ま す	校内研究等の OJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもつて働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っています。 ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3 12月の学校評価保護者アンケート 「(教員は)いきいきと働いている。」の肯定的回答の割合 4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	A 6 B 1 C 0 D 0	【A評価の方から】 ・教員一人ひとりが授業改善に努めており、児童それぞれにとって個別最適な学びにつなげていることがうががえる。 ・保護者の評価が4にに対し、学校の評価が3と2にとどまっているあたり現実の厳しさを感じる。先生方の児童と向き合う時間の確保には、保護者として意識の向上が必要ではないかと感じる。保護者と先生方とのお互いを理解し合う機会の減少、そこを円滑にする難しさは、先生・保護者ともに忙しい現代では難しい問題であると感じた。 ・先生方の研修が充実していると感じ、よりよい授業でこどもたちの学習意欲や保護者の学校教育への関心が高まっていると感じた。また、今年度からの新しい教育目標が、学習の方向性が分かりやすく示されていると思った。 ・本は常に在庫を見直し、時代に合った新しい書籍を補充し続けている。また、スクールサポートのボランティアによる読み聞かせも、東京都内の多くの本屋さんを巡って吟味し、探し出してきた名作を提供している。 ・夏休みに算数キャンプを行い、理系学習の理解を深めるようしている。 ・若年層の先生が多いが、昔遊びが得意で訓練されている方が多いと感じる。 ・それぞれの教師が自分の持ち味を生かした授業を行っており、児童とのコミュニケーションが円滑であるように感じた。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【B評価の方から】 ・学校の自己評価が厳しい。もっと高い評価でよいと感じる。
			4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。			【C評価の方から】 ・会議が多く、教材研究の時間が足りないという声がまだ多く聞かれた。 【改善】専門性の高い教員による、教員向け研修を実施する。 ③定期的退行日の設定、休憩時間の確保に取り組み、一定の成果を挙げた。 ④会議が多く、教材研究の時間が足りないという声がまだ多く聞かれた。 【改善】組織を見直し、スリム化を図る。このことにより、必要な会議が減る見込みである。
			4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。			【D評価の方から】
た自個 め分 のら目 学し標 びく5 をい 支 援 い し ま と す 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしく生き生きと生きるために学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 12月の学校評価保護者アンケート 「(学校は)いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全力であるため、いじめ防止基本方針を策定し(学校HPに掲載)、いじめに 対して組織的に対応する体制を整えている。」 の肯定的回答の割合 4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	A 6 B 1 C 0 D 0	【A評価の方から】 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、学校全体としていじめや児童の悩み等対応していることが感じられる。 ・一人一人の状況に合わせた配慮が行われている。配慮が必要な児童が洗足池を希望する理由が分かった。 ・子どもの個性に合わせた対応ができる先生が多い印象である。問題が起きたときに決めつけないように、とてもよこどもたちの話を聞いていると思う。 ・いじめの問題や不登校など、悩みを抱えた子どもには多くの大人の目で見て寄り添うことは大事なことと思った。早期発見・対応につとめられていることは保護者にとっても学校が安心できる環境にあると思う。 ・特別支援学級では学芸会で太鼓、ハンドベルなど一人一人が違うパートのものもしっかり演奏していた。ストライドや絵の制作も素晴らしい。 ・学芸会では違う学年同士でクイズをしたり紹介をしたりなど、交流を深める工夫が見られた。学芸会では人を思いやり、社会の平和について考える演目が多く、歌もダンスも舞台芸術も衣装も完璧だった。
			4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			【B評価の方から】 ・現状での支援体制は整っていると思うが、SNSや生成AI等、予測不可能な未来に対して、教職員の不足や過重労働などの問題はある。
			4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			【C評価の方から】 ・定期的には特別支援校内委員会の実施により、支援を必用とする児童についての支援策の協議を行うことができた。巡回指導教員との連携も円滑に行うことができた。 ②定期的な早期発見に努め、いじめが発見されたときは、学校いじめ防止基本方針にのっとった組織的な対応ができる。 ③学校いじめ防止基本方針の存在や、いじめが発見されたときの学校の対応方法について、保護者に十分理解されていない。 【改善】学校いじめ防止基本方針がホームページに掲載されていること、またその内容について、保護者会や学校だより等での周知を徹底する。 ④5年生を対象にしたスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる全員面談を実施し、一人一人に寄り添った支援を行うことができた。また、スクールカウンセラーやによる、教員向けの研修も実施し、特性のある児童への理解やその対応について学ぶことができた。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【D評価の方から】
安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的 境な を学 つ習 く空 り間 ま と す 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ②避難訓練や安全指導日などを通じて、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 12月の学校評価保護者アンケート 「2-5(学校は)危険防止の方法を身に付けさせている。」 の肯定的回答の割合 4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	A 6 B 1 C 0 D 0	【A評価の方から】 ・避難訓練などを定期的に開催されており、日々の備えを児童とともに考えられていることがうかがえる。引き続きの対応をお願いしたい。 ・安全で安心な教育が行われていると見学して感じた。 ・地元の方に伝統文化を教えてもらったり、地域の特性をよく生かしていると感じている。保護者の評価が3とどまっているのは、保護者がよく知らないことにつきるようになつた。商店街などがない住宅地エリアということもあり、安心安全に関しては連携の難しさを感じる。もっと地域と連携して避難訓練などができるようになりたい。 ・日頃行う避難訓練では、学校で災害の危険性を学習するとともに、安全に過ごすための指導により子どもたちが正しい知識を身につけることは大事だと考える。 ・毎月避難訓練を実施し、薬物防止授業や情報の取り扱いの授業など、現代の災害や危険から身を守る教育を心掛けている。 ・毎年のクラス編成に合わせて教室や動線の見直しを行い、適宜入れ替えや工事をすることにより、児童にとって快適に教育を受けられる空間を生み出している。 ・1年生の学芸会の劇の中でも、水中動物の危険や、行動の危険などを織り込み、楽しみながら危険回避を学べるように工夫されていた。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【B評価の方から】 ・コロナ禍を通して授業でもデジタル化が進んだと思うが、学校は児童同士が触れ合う場を提供するもので、過度に非対人的な授業は好ましくない。校舎の老朽化に対する対策も講じなければならない。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【C評価の方から】 ・3年生の地域安全マップ作りを通して、地域の特色を知り、安全安心に生活しようとする意識を育てることができた。4年生は、本校卒業生の仏師の方をゲストティーチャーとしてお招きするなど、伝統文化についての学習を進めることができた。毎月1回、教員全員で内を点検し、修繕が必要な箇所については早急に対応するよう、関係部署に依頼することことができた。 ②月に1回の避難訓練の実施、月に1回の安全に関する指導、随時行っている下校指導、長期休業前の指導等を確実に実施し、危険や災害に対する教育を進めてきた。また、消防署と連携した、煙体験、消防器使用訓練、警察署と連携した不審者対応訓練も実施してきた。 ③こうした取り組みが保護者に周知されていない。 【改善】学校だよりやホームページでの広報を通して、防災指導を行っていることを積極的に発信していく。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【D評価の方から】
学地学個 校域校別 をこ・目 つ・き・ ま・テ 地・す イ・域 の・の 核・連 と・携 し・て 協・働 に・よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりを目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 ②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 ③家庭教育に関する情報の発信やPTAなど連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4 12月の学校評価保護者アンケート 「2-7(学校は)教育活動に地域の力を生かしている。」 の肯定的回答の割合 4 : 9 5 % 以上 3 : 8 5 % 以上 2 : 7 5 % 以上 1 : 7 5 % 未満	A 5 B 2 C 0 D 0	【A評価の方から】 ・学校と地域が連携・協働しながら、様々な活動を実施しているといっている。引き続き、このつながりを大切にしながら共に児童を育成していただきたい。 ・地域教育連絡協議会を定期的に開催していただいている。地域の施設で協力できることはやっているといいたい。各行事への説明もありがたいた。 ・地域の人々の協力のもとやっている授業も多くのPTAの登下校の見守り(馬鹿にし放持)も参加率が高かつた。一方で学校・PTA・地域が単体で動くとともに、校外授業の見守りのPTA協力者が少ないイメージもある。学校とPTAで風通しを良くして協力体制を作っていくといいたい。 ・学校が住宅街にあることもあり、日常的に登下校時には地域の人々の目があって、こどもたちが安心して通学できる環境が続くといいと思う。 ・地域の各組織もよくして学校の行事や活動が分かる「洗小だより」を郵送していただき、様子がとてもよく分かり嬉しい。 ・青少年対策委員会主催のスポーツ祭りをはじめ、地域の各行事に先生方やPTAの保護者さんたちが協力してくれており、児童も参加してくれていていいへんありがたいたい。 ・卒業生の仏師の方を招いて授業をするなど地域・卒業生で活躍されている方との連携をとっているので児童の学習の励みになると思う。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【B評価の方から】 ・③の自己評価が低いのが気になる。今後どのようなことを実施しよう計画しているか、示すのがよいと思う。 ・地域行事の参加などが行政の区割りなどで妨げられることがある。
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			【C評価の方から】 ・③の自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す